

育成センターだより

平成30年1・2・3月号
No. 410
長野市
少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109



新年あけましておめでとーございます
本年もどうぞよろしくお願いいたします



有害環境浄化活動強化月間（2月）

一、二、三月の育成活動

希望と期待に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。青少年の皆さんがそれぞれの目標に向かって、四月から力強いスタートを切るために、一、二、三月しっかりと準備ができてますよう心より祈念申し上げます。

この大切な時期、家庭、学校、地域が連携して子供たちとの絆をさらに太くし、環境の浄化や声掛け、非行防止に一層努めていきましょう。



落ち葉掃きひたすらに心をこめて

育成活動の重点

『新年度を前に』

生活を見直し、立て直そう

○「早寝 早起き 朝ご飯」

生活習慣を見直しましょう
身についたよい習慣を継続させましょう

○「約束 守っていますか」

時間、やり方、おもいやり
健全で、安全なスマホ・ネット接続
機器の使い方をしましょう

○「家庭内ノーマディアデー」

「語り合い 家族がそろって
時間を大切に」
家族みんなで取り組みましょう

『花に想う』

長野上小内校長会 生徒指導委員会
長野市立東北中学校長
竹村 昭浩

新しい年を迎え、暦の上ではもう春。あと数ヶ月もすれば一斉に春の花が咲きほころぶ時期になります。

私たちは、春いちばんに咲く桜やチューリップに目を奪われがちです。早い時期に咲くというだけで関心を寄せてしまいます。

しかし、夏には夏の、秋には秋の、そして、冬には冬の花が咲きます。陽を当て、水をやりさえすれば、時期になると、花は必ず咲きます。

人間も同じではないでしょうか。

最近の日本社会は、子どもを促成栽培したがる傾向があるように思います。本来、夏咲くはずの花を春に咲かせようとするとどうなるでしょうか。咲くはずの花も咲かなくなってしまう。その花にあった時期に咲くからこそ美しく咲くのだと思えます。また、なかなか咲かないといって剪定されてしまう場合もあるかもしれません。そうなれば、とうぶん花は咲かないままになってしまいます。

心が育っていないかったり荒んだりにしていることにより、

問題行動を起こしてしまう子どもたちが多いように思います。私たち大人が、無理に促成栽培しようとしたり、剪定したりしてしまっていることが原因のひとつではないでしょうか。その子たちには、たとえ花の咲く時期が遅くてもその花なりの美しさを輝かせるときがくるはず。人の心を動かす美しさに輝くときが必ず...

土を耕し、適度に肥料をやり、陽をたっぷり当て、水をやりながら、いつか美しい花を咲かせるときを楽しみに、信じて待てる心を持ちたいと思います。

今年度、少年育成センターの事業にかかわる中で、いくつかの関係諸機関の方から問題を抱える子どもたちへの対応についてアドバイスをいただきました。とても参考になりました。そこから学ばせていただいたことを振り返りながら、今、このようなことを思い巡らしています。



花は必ず咲きます
その時が来ると

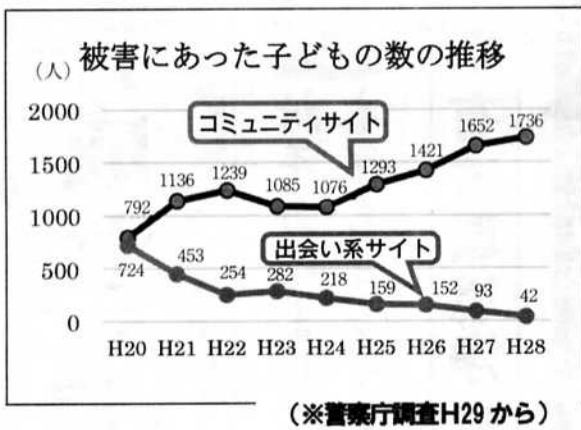
ネット犯罪、被害急増

「親、先生が知らない世界」

増えているネット犯罪

●少年犯罪はここ10年で1/3に減少しましたが、ここ数年のインターネットに絡む犯罪被害は増加の一途をたどっています。

●コミュニティサイト等で、今年上半期における18歳未満の全国犯罪被害は過去最多の900人を超えています。被害者は、女子中高生が8割を占めました。SNSやゲームサイトなどで知り合った人から誘い出しを受けて被害を受けるケースが増えています。適正に使われると便利で有益なインターネットも、危険な側面が潜んでいることがわかります。



その原因と課題

●小中高生のスマホ所持率が年々上昇し、高校生では90%を超え、低年齢化も進んでいます。ゲーム機や音楽プレイヤーなどネットに繋がる機器も増え、自宅以外でもコンビニなどでネットに繋がる環境が整い、これまで以上に簡単にネット利用が出来るようになったことが大きな原因です。

●ラジオ、テレビと異なり、双方向のやり取りが可能で、気軽に見ず知らずの人と繋がってしまう安易さにも原因があるとされます。

●さらに、情報技術の進歩が早く、親や先生が知らなくても子どもたちは知っているネットの世界があります。管理、監督する立場の大人が、適切な判断ができていなくなっている状況も拍車を掛けているように見えます。

求められている対策

●スマホ等を持ち始める時期に、使用方法のルールやモラルをしっかりと教えます。スマホに使用制限を掛けるだけでなく、同時に危険性をしっかりと伝えることが大切です。

●スマホの使用時間、お金の浪費、人間関係の変化など気になることはないか、子供の生活の微妙な変化にも敏感になり、使用状況を見守りましょう。

●トラブルに巻き込まれたときには、すぐ対応する事です。そのために何でも相談出来る子供との関係をふだんからつくっておくことはとても大事です。ネットに詳しくなくとも、トラブルになったときに相談出来る人や窓口を知って動ける頼もしい大人になりましょう。

●青少年ネット利用の法律も整備され、スマホの適正・安全な利用に向けフィルタリングサービス等の提供が携帯販売店に義務づけられています。有効に利用して子供の安全を守りましょう。

少年育成センターでは

●ネット社会の急激な変化や関わる事件について、日頃から注意を払っています。関係機関と細かく連携をとり、青少年保護健全育成の立場から、啓発に有効な情報を発信し続けます。講演や研修の機会もつくって対応します。昨年からは携帯販売店を訪問し現状や課題をお聞きし協力を依頼しています。

●保護者だけの努力では保護やトラブルの解決が難しい時代になっています。子供の安全を守るため、学校、地域はこれまで以上に積極的な保護者との連携が求められています。

まずは身近な状況をよく見聞きし子供と話しをすることからスタートです。ご心配なことがありましたらセンターまで一報下さい。

<小中高生がスマホでしていること(%)>

○小学生 (※内閣府調査 H28 年度から)

(1)ゲーム (2)動画視聴 (3)情報検索
78.1 60.5 40.5

○中学生

(1)動画視聴 (2)ゲーム (3)コミュニケーション
74.0 72.8 67.2

○高校生

(1)コミュニケーション (2)動画視聴 (3)音楽視聴
90.6 84.1 82.8

(4)情報検索 (5)ゲーム (6)地図・ナビゲーション
74.1 72.7 51.2

<フィルタリングサービスって?>

- 携帯電話業者は、18歳未満の子供がスマホなどを利用する場合はフィルタリングサービス(有害サイトアクセス制限サービス)を提供する義務があります
- 購入の際には、主に子供が使うことを販売店に伝え、活用しましょう
- 年齢や使い方によりレベルが設定でき、個別設定もできます

<家庭のルール(具体例)>

- 名前や顔写真、学校名などは書き込まない
- 友達にメールやメッセージのやり取りを強要しない
- 利用する場所、時間を決める
- パスワードは親が管理する
- トラブルの時はすぐに親に相談する

※学校・地域で情報を交換していくことが大切です

★
**〔学校紹介〕 地域キャンパス校
 「中条校」の魅力**
 長野西高校中条校PTA会長
 竹内 広
 ★

明治四十二年、組合立西部農学校として開校して以来百年以上の歴史をもつ中条校。今から六十年前前に建設された本館校舎は戦後初の鉄筋コンクリート三階建て。木造校舎の時代に校友会・地域の皆様・PTAを始めとする関係者の熱意の結果、改築完成しました。青少年育成の先駆けであり、その思いは今も伝統として息づいています。生徒の減少からキャンパス校となって九年目を迎え、虫倉山と土尻川を見ながら、自然豊かな地で穏やかさと落ち着きある環境で、生徒たちは学校生活を満喫しています。各学年一



運動会開会式 地域と一緒に

クラスの小規模校の特色である、少人数の授業や、自然を通して地域密着の体験活動や一人一人が活躍できる場面が増え、自分の成長を実感できる教育が営まれています。中学時代から一歩前進し、自分らしさを再認識するため、保護者と

教職員と地域が一体となり青少年育成を図る意識の高い雰囲気は魅力です。西楼祭は地域密着型の県下でも珍しい文化祭です。高校文化祭と地区運動会のコラボレーション。二年連続で雨天中止となり三年振りに開催された第六



地域と繋がる笑顔と歓声の熱戦

十三回中条地区住民大運動会。前日夕方の大雨が危ぶまれましたが、地元の方々の熱意により、当日早朝から

スポンジとバケツを総動員してグラウンド整備を行い、快晴の青空の下、賑やかに開催されました。大好評の模擬店と共に、中条校チームとして参加したチームの激戦を制し準優勝しました。高齢化と過疎化の進む中での運動会。住民の皆様が笑顔と歓声がグラウンドに響き渡り、高校生の躍動感ある元気な姿が印象的でした。PTAの枠を超え、住民の皆様からも育成して頂き、地域全体が活性化される良い活動を展開しています。青少年育成の原点である「住民全体で次世代を担う子供達を健全育成したい。」そんな思いが溢れる地「中条」に感謝！

★
**〔地区活動紹介〕
 古牧子ども会長会と
 ふるさとふれあい教室**
 古牧地区住民自治協議会
 青少年育成部部長 高山 円香
 ★

古牧地区は13地区からなり、通学区の小学校が3校、中学校が2校ある地域です。青少年育成部では子ども達の健全育成のため、さまざまな行事の企画・運営をしています。

子ども達が主体で活動しているものに、子ども会長会・子ども総会、子ども活動発表会があります。子ども会長会では、各地区の子ども会長（6年生）が月1回集まり、各種行事の準備や交流を行っています。子ども総会では5月に行う行事を発表し、その結果報告を2月



第16回 古牧地区子ども会総会

の活動発表会で行われます。市議会議員の方、校長先生、PTA会長さん、各地区区長さん、役員の方々、大勢のご来賓を迎え、司会進行も子ども会長が

を迎え成功した達成感、そのことを伝える発表会。一年を通して、子ども達の役に対する責任感が高まり、成長していく姿がうかがえます。十月には、参加人数400名を超える「ふるさとふれあい教室」も行われました。



人が繋がり 地域が一つに

古牧地区各種団体と地区内の学校との連携・連帯力を高め、世代間交流を通じて人と地域にふれあいつながりながらふるさと

を大切にする心を育てることを目的に、今年で30回目を迎えました。会場は地区内の学校で、今年も三陽中学校をお借りし、学校周辺のウォークラリー、昼食のカレー作り、子ども会長が企画したレクリエーションを行います。各地区でチームを作り得点を競うので自然と協力し、団結力が生まれます。カレー作りでは、慣れない手つきで頑張る子ども達を見守る優しい目と、手際よい姿を尊敬の眼差しで見ている子ども達。会場は温かい空気に包まれます。地域の皆様に支えられながら活動できておりますこと心より感謝申し上げます。

★少年の主張（県知事賞受賞作品）

考える私に

長野市立東部中学校三年 丸山 祐奈



私たち東部

中学校の三年生は、中学一年から平和学習を始め、そのまとめとして今年の四月、二泊三日の修学旅行で広島を訪ねました。

一日目と二日目は、平和記念資料館の見学をしたり、現地の中学生との交流を経験したりしました。そこで私は、戦争の怖さ、悲惨さ、一発の原子爆弾で多くの人々の尊い命を奪ったアメリカへの怒りを感じました。

三日目は、瀬戸内海の大久野島に渡って毒ガス資料館を見学しました。そこでは、旧日本軍が研究開発を進めていた毒ガス製造の過程や、防毒服などを見ました。見学する中で、日本も使わなかっただけで、毒ガスという原爆と同じような大量殺人兵器を作っていたと知り、日本もこんな悪いことをしていたんだ。アメリカとお互い様じゃないかと思いました。そして、世界から核兵器がなくなり、戦争がなくなっしてほしいと祈って三日間の修学旅行を終えました。

ところで、私たちの学校では昨年度から「ライフスキル」といって、社会性や人間関係の力を学ぶ学習を全校一

斉に行っています。今まで「見た目で人を判断しない」や、「判断を迷う時にどう行動するか」といった学習をしてきましたが、三年生になってからは、「感情と考えは分けて伝える」ということを学びました。

感情と考えとは分けて伝える……これを知ったとき、私は広島修学旅行で自分が学んだつもりでいたことに疑問を感じるようになりました。広島資料館を見れば「アメリカが悪い」と思い、「大久野島の資料館に行けば「日本も悪い」と思っていました。私は、感情と考えを分けるどころか、その時、その時に心にわいた感情だけを振りまいていただけで、そこから一歩進めて「考える」ということをしようとはしていなかったのです。

そうした例は平和学習だけでなく、今までの自分の生活を振り返ってもありません。たとえば東部中学校のげた箱は、伝統的につま先を手前にしてくつを置きます。たくさんのくつが、つま先を前に向けて並んでいる昇降口の様子を見て私は、ただ「きれいな」くらいにしか思っていないませんでした。しかし、実はそうする理由も多くの人が通る昇降口で、汚れたくつの中が見えないようにする他人に対しての配慮や気遣いがあったのを考えようとはしませんでした。感情だけで判断していれば、その背後にある理由やいきさつがわからず、正しく物事を見ることのできないのかもしれない。

今回の広島修学旅行でも、実際の戦争の遺産を見学して「怖い」「悲惨だ」か

わいそうだ」と感じたのめかけがえのない体験でしたが、それだけでなく、なぜ、アメリカも日本も、人を殺す兵器を作ることによって一生懸命になったのだろうか。

なぜ、アメリカは、原子爆弾を落とすということをしたのだろうか。

なぜ、世界の多くの国々を巻き込む戦争が起こったのだろうか。

そして、国民の一人ひとりが「人を殺すのは悪い」とわかっていながら、なぜ日本は自分たちから戦争を仕掛けていったのだろうか。

そうした疑問をもって、それを知っていくことが次の私の勉強につながります。

「感じる」や「思う」だけではなく、見た事や聞いたことをもとにして「考えて」いかなければ、自分だけの視野の狭い世界にとどまって、広く豊かに物事を見ることができません。

私は、自分の感性も大事にしていきたいと思います。それと同時に「なぜ」と考えていく努力をしていきたい！そのことを広島修学旅行とライフスキルの学習から学びました。（終）

+++++

★去る十一月十八日（土）大町市にて開催されました、第39回長野県青少年健全育成大会におきまして、長野市立東部中学校三年丸山祐奈さんが少年の主張県知事賞を受賞し表彰されました。そして、大勢の参会者の前で堂々と発表がなされました。

作品全文を掲載させていただきますので、ご覧ください。



困ったら・・・困る前に

『青少年の相談は』

長野市青少年育成センターへ

電話2288-85888

月々金曜日（祝休日を除く）

8時30分～17時15分

※匿名でけっこうです

来所の相談にも応じています

（編集後記）

平成29年度も最終号を迎えました。日頃は環境浄化活動や巡回指導、愛の声掛け運動など、青少年健全育成並びに本センターの活動に御支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。全体では青少年犯罪、非行事案はここ10年減少しております。関係者のご尽力の賜と御礼申し上げます。今後課題としましては、増加するネット犯罪・被害、変わらぬ初発型非行の防止、啓発活動です。関係機関の横の連携をこれまでに強化して、今年以上の成果を上げたい。一年間ありがとうございました。